

1  
昭和55年度

9 日本優秀デザイン 8  
商品開発指導事業報告書

0

(財)日本産業デザイン振興会

〒105 東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル別館 4 階  
TEL. 03-435-5633・5634 / 431-0714

# 昭和55年度 優事業参加地方庁別概要

| ●地方庁 | ●単位 | ●指導対象業種・品目         | ●指導方法 | ●専門指導員    | ●指導日            |
|------|-----|--------------------|-------|-----------|-----------------|
| 青森県  | 3   | 木工・陶器等             | 開発    | 高木晃・宇佐波徳美 | 56. 2/5~2/6     |
|      |     | パッケージデザイン          | 基本+開発 | 八尾武郎      | 56. 3/19~3/20   |
| 岩手県  | 1   | 雑貨・食料品等のパッケージ      | 基本+開発 | 大川允       | 56. 2/12        |
| 秋田県  | 2   | 杉曲物・杉工芸品           | 基本+開発 | 鈴木庄吾      | 55. 10/27       |
|      |     | 銀線細工               |       |           | 55. 10/28~10/29 |
| 宮城県  | 2   | 鳴子漆器               | 基本+開発 | 山下三郎      | 55. 12/22~12/23 |
|      |     | 岩出山竹細工、中新田打刃物      | 開発    | 山下三郎      | 56/3/19~3/20    |
| 山形県  | 1   | 日用品工芸鋳物、木製家具       | 基本+開発 | 服部守久      | 56. 3/19~3/20   |
| 山形市  | 1   | 食料品等のパッケージ         | 基本+開発 | 八尾武郎      | 55. 11/12~11/13 |
| 福島県  | 2   | 漆器(会津漆器全般)         | 開発    | 橋戸茂       | 55. 10/21~10/22 |
|      |     | 陶磁器(大堀相馬焼全般)       | 開発    | 佐藤潤四郎     | 55. 11/20~11/21 |
| 新潟県  | 1   | 木製品                | 基本+開発 | 山下三郎      | 56. 1/19~1/20   |
| 栃木県  | 3   | 踊り衣裳               | 基本+開発 | 松本建治      | 56. 2/9~2/10    |
|      |     | インテリア織物            | 基本+開発 | 佐戸川清・山岸征史 | 56. 3/18        |
|      |     | 家庭用木製品             | 基本+開発 | 荻野克彦      | 56. 3/26~3/27   |
| 群馬県  | 1   | パーマネントマッチ          | 基本+開発 | 八尾武郎      | 55. 11/7        |
|      |     | 保育つみ木              | 基本+開発 | 大川允       | 55. 11/27       |
| 神奈川県 | 1   | 室内用品、食卓厨房用品等木製品製造業 | 開発    | 荻野克彦      | 55. 10/21~10/22 |
| 滋賀県  | 1   | 陶磁器(信楽焼)           | 基本+開発 | 佐久間幸      | 55. 11/25~11/26 |
| 福井県  | 2   | 若狭めのう              | 基本+開発 | 船津英治      | 56. 3/12~3/13   |
|      |     | 陶磁器(越前焼)           | 開発    | 宇佐波徳美     | 55. 9/11~9/12   |
| 和歌山県 | 2   | ブラシ、たわし、マット、ホーキ等   | 基本+開発 | 大川允       | 56. 3/12~3/13   |
|      |     | 漆器、プラスチック製品        | 基本+開発 | 橋戸茂       | 56. 2/26~2/27   |
| 鳥取県  | 1   | 機械抄和紙製造業           | 基本    | 西川誠一      | 56. 2/25        |
| 島根県  | 1   | 陶磁器(石見焼)           | 開発    | 和田三千穂     | 56. 3/24~3/25   |
| 広島県  | 1   | 下駄、サンダル、木ヒール       | 基本+開発 | 木村益子      | 55. 11/17~11/18 |
| 香川県  | 1   | ボタン                | 基本+開発 | 藤沢隆三      | 56. 2/12~2/13   |
| 愛媛県  | 1   | 陶磁器(砥部焼)           | 基本+開発 | 熊沢輝雄      | 56. 3/23~3/24   |
| 大分県  | 1   | 竹、つげ製品、木竹工芸品       | 開発    | 斎藤文徳      | 55. 9/24、9/26   |
| 佐賀県  | 1   | 陶磁器                | 開発    | 田中芳雄      | 56. 2/16~2/17   |
| 鹿児島県 | 1   | 屋久杉家具、木竹小工芸品       | 基本+開発 | 秋岡芳夫      | 56. 3/30~3/31   |
| 沖縄県  | 2   | 陶器、漆器、紅型、織物        | 基本    | 古田重郎・高数昭  | 55. 12/17       |

# 青森県

## ■青森県商工労働部観光課

030 青森市長島1-1-1

TEL.(0177)22-1111

## 現地指導員■

### ①木工・陶器等

望月好夫 青森県工業試験場漆工課長

036 弘前市袋町75

TEL.(0172)32-1466

成田卓夫 青森県木工指導所意匠課技師

030-01 青森市ハッ役字芦谷202-4

TEL.(0177)39-8551

### ②パッケージデザイン

坂本 諭 青森県木工指導所意匠課技師

030-01 青森市ハッ役字芦谷202-4

TEL.(0177)39-8551

## 現状■

本年度は従前から継続指導を行なっている、ブナコ漆器、ヒバ油物の外に、今後一層の新商品の開発および改良が望まれている本県観光土産品業界の中から、県南地方の小木工品、陶器等をとらえ既存商品のデザイン改善指導を実施した。

また、パッケージデザインについては、昨年度に続き2回目の実施であるが、今回は業種を問わず参加者全員による討論会形式をとり、業界各層からの幅広い意見交換をもとに、デザイン指導を実施した。

## 実施概要■

### ①木工・陶器等

専門指導員による現場での個別指導。

### ②パッケージデザイン

(1)専門指導員によるスライドを利用した講演。

(2)専門指導員のアドバイスのもとに参加者全員での討論会形式による個別指導。

## 指導日■

### ①木工・陶器等

昭和56年2月5日～6日

### ②パッケージデザイン

昭和56年3月19日～20日

## 指導場所■

### ①木工・陶器等

弘前市・十和田市・金木町

### ②パッケージデザイン

青森市・八戸市

## 専門指導員■

### ①木工・陶器等

高木 晃 (株)高木晃デザイン事務所  
代表取締役)

宇佐波徳美 (有)ウサナミデザイン研究所

代表取締役)

### ②パッケージデザイン

八尾武郎 (株)Y A Oデザイン研究所

代表取締役)

## 指導対象業種・品目■

### ①木工・陶器等

ブナコ漆器・ヒバ油物・絵馬・南部駒踊陶人形・南部裂織

### ②パッケージデザイン

パッケージ一般

## 指導対象組合・企業■

### ①木工・陶器等

ブナコ漆器製造 (株)

丹場曲物工芸社

杉工房

(有)南部駒

南部裂織保存会

### ②パッケージデザイン

県内製造販売業者

# 岩手県

## ■岩手県商工労働部商政課

020 盛岡市内丸10-1

TEL.(0196)51-3111

## 現地指導員■

町田俊一 岩手県工業試験場技師

020 岩手県紫波郡都南村津志田26

TEL.(0196)36-3640

## 現状■

新幹線の開通を間近に控え、県内の各業界では新製品の開発、パッケージの改良など様々な分野にわたっての研究、工夫が行なわれているが、その過程における適切なアドバイス、指導が必要となっている。

## 実施概要■

### ①講義

「商品の表示規則について」

「海外における生活用品のデザイン傾向」

### ②地場産品(現物)への直接アドバイス

生産者から、デザイン等の問題点を提起してもらい、それに対して指導員が回答した。

## 指導日■

昭和56年2月12日

## 指導場所■

岩手県庁12階講堂

## 専門指導員■

大川 允 (株)伊勢丹研究所インダストリアルデザイン担当ディレクター)

## 指導対象業種・品目■

雑貨・食料品等のパッケージ

## 指導対象組合・企業■

県内11企業

# 秋田県

## ■秋田県産業労働部商工課

010 秋田市山王4-1-1

TEL.(0188)60-1683

## 現地指導員■

佐野祐司 秋田県工業試験場専門研究員

010 秋田市茨島1-4-82

TEL.(0188)62-3414

## 現状■

大館市——杉曲物、杉工芸品

問題点：昭和55年度、伝産法による産地指定を受け、産地は活況を呈しているが、新製品開発については停滯感が強い。

指導方針：新しい需要に即した高付加価値商品の開発指導。

秋田市——銀線細工

問題点：伝統的な手加工のため、量産に乏しくデザインの進歩がみられない。

指導方針：流通を含めた商品の開発指導。

## 実施概要■

### ①個別指導

大館市

(株)大館工芸社：木製工芸品のデザインと流通について。

大館曲物曲輪工業(株)：曲輪のデザイン改善。

田山工房：杉工芸品のデザイン改善。

高橋塗物店：曲物のデザイン改善と塗装について。

秋田市

(株)竹谷本店：銀線細工の装身具のデザイン改善。

(株)細川貴金属店：銀線細工の装身具のデザイン改善及び商品展示の方法について。

(株)すずらん貴金属店：同上

### ②集中指導

秋田市文化会館において、デザイン・技術の指導に関する講習会を開催した。

参集者——金工・木工関係業者約50名

## 指導日■

昭和55年10月27日～29日

## 指導場所■

大館市及び秋田市の参加各企業  
秋田市文化会館

## 専門指導員■

鈴木庄吾（インダストリアルデザイナー）

## 指導対象業種・品目■

杉曲物、杉工芸品、銀線細工

## 指導対象組合・企業■

(株)大館工芸社  
大館曲物曲輪工業(株)  
田山工房  
高橋塗物店  
(株)竹谷本店  
(株)細川貴金属店  
(株)すずらん貴金属店

# 宮城県

## ■宮城県商工労働部商工振興課

980 仙台市本町3-8-1  
TEL.(0222)63-2111

## 現地指導員■

佐藤 明 宮城県工業技術センター技師  
982 仙台市長町8-7-20  
TEL.(0222)48-4386

## 現状■

鳴子漆器、岩出山竹細工、中新田打刃物の業界は、企業規模が零細であり、原材料確保、後継者育成、販路の拡大等種々の問題をかかえている。これらの業種を地場産業として振興を図るため、特に市場の拡大という観点から、伝統的な技術を基礎に、新しい時代、消費者ニーズに対応した高付加価値商品の販売を指向した商品開発から流通までを総合的に研究開発する必要がある。

## 実施概要■

### ①鳴子漆器

多様化した消費者ニーズにあった商品の開発を図るため、デザイン一般に対する啓発講演と個別指導による試作品の製作を行なった。

### ②岩出山竹細工

試作品に対するデザイン改善指導を実施した。

### ③中新田打刃物

今後の指導方向を決めるための各企業の実態と要望把握のための個別指導を行なった。

## 指導日■

### ①鳴子漆器

昭和55年12月22日～23日

### ②岩出山竹細工

昭和56年3月19日

### ③中新田打刃物

昭和56年3月20日

## 指導場所■

参加各企業

## 専門指導員■

山下三郎（東北工業大学工業意匠学科  
助教授）

## 指導対象業種・品目■

### ①鳴子漆器

日用工芸品漆器全般

### ②岩出山竹細工

ザル、カゴ、クラフト用品

### ③中新田打刃物

草刈鎌、包丁

## 指導対象組合・企業■

### ①鳴子漆研会

### ②岩出山竹細工生産事業協同組合

### ③中新田草刈鎌同業者組合

# 山形県

## ■山形県商工労働部経営指導課

990 山形市松波2-8-1  
TEL.(0236)30-2365

## 現地指導員■

武井呉郎 山形県工業技術センター研究員  
藤田寿夫 山形県工業技術センター研究員  
羽生田光雄 山形県工業技術センター研究員  
990 山形市沼木字車の前683  
TEL.(0236)44-3222

## 現状■

日用工芸品・木工業界ともに、全般に昨年下半年から生産が停滞し、年が明けても依然として、ダークトーンに包まれており、両業種とも現状打開に必死である。

鋳物工業団地組合では、新分野のパイロットデザインを推進し、3月、東京で発表会を開催するとともに、団地ぐるみで発注開拓に取り組んでいる。

一方、木工業界においても、大手企業を中心に、新商品開発が活発で、独自に見本市、展示会を開催し、販路拡大、需要の喚起に努め活路を見出すべく積極的な活動が行なわれている。

## 実施概要■

指導方法は昨年に引き続き、開発+基本指導として次の2つについて実施した。

(1)当所でおこなっている鋳物と木工の技術、素材の交流によるグリルサービス用品のプレゼンテーションと商品化に向けて、専門指導員、参加業者から問題点の指摘、アド

バイスを受けた。

(2)マーケティングについて専門指導員の服部氏から前段で、「マーケティングに基づく商品企画」、後段では「ケース・スタディとしてのマーケティングの活用法」について講演をしていただいた。その後、産地におけるデザイン開発とマーケティングについて活発な討議が行なわれた。

## 指導日■

昭和56年3月19日～20日

## 指導場所■

山形県工業技術センター研修室

## 専門指導員■

服部守久（(株)博報堂第5本部マーケティング部参事）

## 指導対象業種・品目■

日用品工芸鋳物  
木製家具

## 指導対象組合・企業■

日用品工芸鋳物 7社、11名  
木製家具 5社、14名

# 山形市

## ■山形市経済部商工課

990 山形市旅籠町2-3-25  
TEL.(0236)41-1212

## 現地指導員■

藤田寿夫 山形県工業技術センター研究員  
武井呉郎 山形県工業技術センター研究員  
羽生田光雄 山形県工業技術センター研究員  
990 山形市沼木字車の前683  
TEL.(0236)44-3222

## 現状■

山形市の食料品は、企業数206社(14.6%)、製造品出荷額357億円(12.7%)、と主要産業になっている。

今回は特に菓子、製麺を中心に行なったが、販売地域が特定化(市内中心)しており、必然的に地方色のあるパッケージデザインが予想されたが、殆んどが都会的、スーパー的各社の特色が見られなかった。

そこで、自社製品にマッチしたパッケージのデザインを探るため、基調講演会、並びに個別現場指導を行なった。

## 実施概要■

### ①基調講演会(12社、17名)

パッケージデザインの必要性和役割及び現状について講演を行なった。

また、各社製品を持ち寄り、意見交換並びに指導を受けた。

- ②個別巡回指導（菓子、製麺、漬物）  
各社製品について、具体的指導を行なった。

#### 指導日■

昭和55年11月12日～13日

#### 指導場所■

12日：山形県工業技術センター  
13日：対象企業事業所

#### 専門指導員■

八尾武郎（株）Y A Oデザイン研究所  
代表取締役

#### 指導対象業種・品目■

食料品

#### 指導対象組合・企業■

食料品（12社、17名）  
菓子（8社）、麺（3社）、漬物（1社）

## 福島県

#### ■福島県商工労働部経営指導課

960 福島市杉妻町2-16  
TEL.(0245)21-1111

#### 現地指導員■

佐藤滝美 福島県会津若松工業試験場  
漆工科長

長谷川善次 福島県会津若松工業試験場  
デザイン科長

佐藤 隆 福島県会津若松工業試験場研究員  
965 会津若松市門田町飯寺字村西  
TEL.(0242)27-0834

#### 現状■

漆器、陶磁器業界の現状は共に全般的に流通面で伸び悩みの状態にあり、特に漆器については、P・C物が下向線にあり陶磁器業界共に産地企業の合理化、デザイン改良を図り、新商品の開発を進める方向にある。

#### 実施概要■

##### ①漆器

市場動向と流通問題に合せ和風文具類、テーブルウェアについて加飾、技術の指導と共に、会津漆器の高級化指向、P・R等の積極的方向づけを受けた。

##### ②陶磁器

伝統的工芸品としての技術的な不足を補うよう指導を受け、併せて新商品開発指導を受けた。

#### 指導日■

##### ①漆器

昭和55年10月21日～22日

##### ②陶磁器

昭和55年11月20日～21日

#### 指導場所■

##### ①漆器

会津若松

##### ②陶磁器

浪江町、大堀町

#### 専門指導員■

##### ①漆器

楢戸 茂（株）高島屋本社商品本部  
商品デザイン担当

##### ②陶磁器

佐藤潤四郎（フリーランスデザイナー）

#### 指導対象業種・品目■

##### ①漆器

会津漆器全般

##### ②陶磁器

大堀相馬焼全般

#### 指導対象組合・企業■

##### ①漆器

会津漆器協同組合連合会  
辰己商店  
関漆器店  
白木屋漆器店

##### ②陶磁器

大堀相馬焼協同組合  
陶富治  
鈴木幸喜  
山田守男  
大槻正四

## 新潟県

#### ■新潟県商工労働部商業振興課

951 新潟市学校町通一番町602  
TEL.(0252)23-5511

#### 現地指導員■

近藤博一 新潟県工業技術センター  
加茂試験場長

959-13 加茂市大字上条1372

TEL.(02565)2-0133

五十嵐禎夫 新潟県工業技術センター技師

950 新潟市鑑西1-11-1

TEL.(0252)44-9168

#### 現状■

(1)山北町を中心とした当地区は杉材に恵まれ、建材の出荷地として知られているが、近年、山北町森林組合を中心に第二次製品の製品開

発の気運が高まっている。現在、焼杉による花器、茶卓等の民芸品を中心とした製品化は行なわれているが、県内外の小売店等から広く木工品としての新商品開発、デザイン・加工技術の向上が求められている。

(2)朝日村の朝日工芸協業組合は、当地区がほう、桂材等の資源に恵まれているため、盆、鉢等の刳物を主体に生産するとともに、村上堆朱の本地製造も行なっている。朝日村では過疎対策として、これら小木工品を村の特産品として第二次産業を興したい意向が非常に強い。

#### 実施概要■

木工芸産業と製品開発についての講演会開催及び製品個別指導を行なった。

#### 指導日■

昭和56年1月19日～20日

#### 指導場所■

山北町  
朝日村

#### 専門指導員■

山下三郎（東北工業大学工業意匠学科  
助教授）

#### 指導対象業種・品目■

木製品

#### 指導対象組合・企業■

山北町森林組合  
朝日工芸協業組合

## 栃木県

#### ■栃木県商工労働部中小企業課

320 宇都宮市塙田1-1-20  
TEL.(0286)23-3166

#### 現地指導員■

##### ①踊り衣裳

小此木照明 栃木県繊維工業試験場  
副主幹兼デザイン縫製部長  
326 足利市西宮町2870  
TEL.(0284)21-2138

##### ②インテリア織物

渋谷 功 栃木県県南工業指導所  
所長補佐兼繊維部長  
327 佐野市天野町950  
TEL.(0283)2-0733

##### ③家庭用木製品

小川 隆 栃木県中央工業指導所  
副主幹兼工芸部長  
322 鹿沼市白桑田516-1  
TEL.(0289)62-5211

## 現状■

### ①踊り衣裳

デザイン指導方針：新柄デザイン、色、柄、配色の問題

### ②インテリア織物

佐野織物はインテリアが主であるが、インテリア織物は需給のバランスが崩れ、従来の製品は採算が悪化している。

新製品の研究開発、販路開拓、PR方法の研究が必要とされているが、具体的な方法が見つからない。

### ③家庭用木製品

デザイン指導方針：

- 見込生産と販売におけるライン作り
- デザイン契約の問題
- クラフト工芸の立場から
- 流通に拘る物づくり
- 無理のない技術革新
- 製品開発の在り方と消費者の動向
- 情報網
- セールス対面販売

## 実施概要■

### ①踊り衣裳

- スライドによる日本の伝統織物のデザイン紹介
- 各企業の特長ある商品作り
- 本格的デザイン学習のすすめ
- 舞台衣裳としてのデザイン観
- 現物衣裳によるデザインの説明、指導

### ②インテリア織物

インテリア織物と衣料等の生活用品との関連についての指導

- インテリア織物の今後の動向、流行
- 色彩、素材、織組織と形との関係
- サンプルのつくり方
- テーマの決め方

### ③家庭用木製品

各企業を巡回し、新製品の開発、品質向上、今後の在り方について指導するとともに、関連商品の市場動向等集中指導も実施した。

## 指導日■

### ①踊り衣裳

昭和56年2月9日～10日

### ②インテリア織物

昭和56年3月18日

### ③家庭用木製品

昭和56年3月26日～27日

## 指導場所■

### ①踊り衣裳

各企業  
ニューミヤコホテル

### ②インテリア織物

佐野織物協同組合

### ③家庭用木製品

各企業  
栃木県中央工業指導所

## 専門指導員■

### ①踊り衣裳

松本建治（フリーランスデザイナー）

### ②インテリア織物

佐戸川清（佐戸川清デザイン事務所所長）

山岸紀史（テキスタイルアートスタジオ代表）

### ③家庭用木製品

荻野克彦（㈱ハンブティダンブティ代表）

## 指導対象業種・品目■

### ①踊り衣裳

### ②インテリア織物

### ③家庭用木製品

## 指導対象組合・企業■

### ①踊り衣裳連合会

### ②佐野織物協同組合

### ③鹿沼家庭用木製品組合

# 群馬県

## ■群馬県商工労働部商政課

371 前橋市大手町1-1-1

TEL.(0272)23-1111

## 現地指導員■

栗林 弘 群馬県工業試験場工芸部長

371 前橋市鳥羽町190

TEL.(0272)51-4261

## 現状■

### ①パーマネント マッチ

極く少量のベンジン、ガソリン等を燃料とし、マッチと同じ要領で点火させるもので、用途は、タバコ、キャンドルの火源のほか、アクセサリ要素を含んでいる。数多くの発明賞、特許を獲得し、製品の90%を輸出に向け、米国をトップとしている。

製品の機能は、比較的単純で画一化されているが、ニーズの多様化は甚しく、形と色彩を含めたデザインに、大きな多様化がみられる。形と色彩の段階的整理と国内需要の拡大に向けて、デザイン改善、開発の必要性を認める。

### ②保育つみ木

大手デパート、商社からの注文が殺到する反面、従業員3名という、需要と供給のアンバランスがある。従業員の不足が当社最大のネックとなっている。製品は、生地色仕上げの中空構造つみ木が主流で、一部着色ムク材つみ木も製造している。概して仕事は丁寧で、特に、指物技術を巧みに取り入れた形状の美しさは、高く評価できる。

製造工程に画一性がなく、従って遊ぶ機械も多く、部品や工程の流れが全くつかめない点は今後の改善点である。開発要件は多く、つみ木を収納する木箱に、プラスアルファと

しての機能的デザインを加味した方向を考えて、需要の拡大をねらいたい。

## 実施概要■

今回の対象品目は、産地化されていない、単一企業品目といえるもので、個々企業訪問の上、製品に対するデザイン改善、開発にわたる直接指導を実施した。

### ①パーマネント マッチ

現状製品のデザイン転換として、色彩、図柄の整理を行ない、製品の特徴付けを図る。

用途の拡大として、パーペキューマッチ等の開発をされるとよい。マッチペンは、多目的性を余り考えない方が、むしろよい。各商品のパッケージは機能的に優れたものがあるが、印刷の文字は正しく表示されたい。

今後は、現状に甘んじることなく、国内向け需要の拡大を図り、数年先を見越した開発姿勢が必要である。

### ②保育つみ木

木製中空構造つみ木の内部に、音を発する鈴などを入れたアイデアは大変よい。特に八角形のつみ木は、指物技術を高度に使う、デザイン的にも好感がもてる。今後、発展への視点として、手間のかからぬつみ木の製造を考えるとよい。つみ木そのものの形状は固定化しているので、つみ木を収納する木箱を、むしろ機能面に重点を置いてデザイン開発することを望む。木箱を別の遊具要素として考える方法である。なお、現在の収納木箱は平凡でもあるので、ちょっとしたアクセント的な、絵付とか社名を印刷したシール等を付けるとよい。

## 指導日■

### ①パーマネント マッチ

昭和55年11月7日

### ②保育つみ木

昭和55年11月27日

## 指導場所■

各企業内

## 専門指導員■

### ①パーマネント マッチ

八尾武郎（㈱YAOデザイン研究所  
代表取締役）

### ②保育つみ木

大川 允（㈱伊勢丹研究所、インダストリアルデザイン担当ディレクター）

## 指導対象品目・企業■

### ①パーマネント マッチ

三桐興業(株)

### ②保育つみ木

積木堂



# 神奈川県

## ■神奈川県工芸指導所

250 小田原市本町1-7-53  
TEL.(0465)22-4168

## 現地指導員■

小堀 誠 神奈川県工芸指導所技師  
浅井廣一郎 神奈川県工芸指導所技師  
250 小田原市本町1-7-53  
TEL.(0465)22-4168

## 現状■

指物・挽物・寄木・木象嵌などの技術により、食卓厨房用品・玩具・室内用品・観光土産品等、多品種の木製品を製造しているが、消費動向の多様化に対応するため、商品デザインの情報収集と分析、新品種のデザイン開発、時流に合致した付加価値の高い商品開発が必要とされている。

## 実施概要■

今年度は特に、個別開発指導をより効果的に  
行なうため、参加6企業の現状・問題点・要望等の諸情報を専門指導員に事前に提示し、流通を意識した商品開発を行なった。  
試作品は、木の素材感を生かしたデザインと新しい機能を持たせたものとし、第1次試作・第2次試作を経て単なる試作品でなく、かなり商品性の高いものにまとめた。製品の一部は、すでに商品化されたものもある。

## 指導日■

昭和55年10月21日～22日

## 指導場所■

各現地企業内

## 専門指導員■

荻野克彦 (株)ハンプティ・ダンプティ代表)

## 指導対象業種・品目■

室内用品・食卓厨房用品等、木製品製造業

## 指導対象組合・企業■

(株)露木木工所 (箱根物産指物協同組合)  
(有)あしがら物産 (箱根物産協同組合)  
大川木工所 (小田原漆器協同組合)  
(有)安間商店 ( " )  
赤塚木工所 (小田原本製品協同組合)  
(有)おくや物産 ( " )

# 滋賀県

## ■滋賀県立信楽窯業試験場

529-18 滋賀県甲賀郡信楽町長野498  
TEL.(07488)2-1155

## 現地指導員■

西尾千秋 滋賀県立信楽窯業試験場場長  
福村 哲 滋賀県立信楽窯業試験場技師  
伊藤公一 滋賀県立信楽窯業試験場技師  
河井宏司 滋賀県立信楽窯業試験場技師  
529-18 滋賀県甲賀郡信楽町長野498  
TEL.(07488)2-1155

## 現状■

信楽は大型陶器の産地として独特の生産態勢があるが、陶器の一番ポピュラーな商品、食器を作る体制が弱いので、景気変動の波をすぐ受けて、企業の浮沈がはげしくなっている。それ故、不得手な食器造りを充実させて、現在の多様化時代に対応出来るようにする必要がある。

また、その動きにあわせて、産地も中小企業産地振興法の指定を受け、その取組みの事業として、昭和56年3月、東京において、食器の新作展を開催する計画が具体化しているので、食器のデザイン開発を重点的に行なうことにした。

## 実施概要■

まず最初、事業実施にあたり、専門指導員の基調講演会を滋賀県立信楽窯業試験場において開催する。最近10年間の家庭での食生活がどのように変遷して来ているか、具体的なグラフと写真により説明があり、その主趣は、食生活が健康管理、健康食品という観点から選択され、洋風料理・中華風料理が漸増し、和風料理が圧迫されていること、また、食卓上は個々によそり分けることが少なくなり、大皿に盛られたものを各自が好きなだけとって食べる形式に推移していることの指摘があった。それ故、そういう観点から食器の品揃え、商品構成をすることが必要であると力説された。

個々の企業の個別訪問形式による実際指導にあたっては、コーヒー碗皿だけを製作している、他に展開していないレパートリーの狭さを打開して、パン皿、スープ碗、ミルクカップなどを作り、生活実態にあわせた商品群にすること、伝統的なナマコ釉がうまく生かさないで、やぼつたくなっているが、デンマーク製品のように現代的に生かす工夫をすること、伝統的工芸品が煎茶器や茶陶に片寄っているが、それを日常の生活具に生かすこと、また、産地として、狸など大型の造型を作る技術に優れている特色を生かし、そのレパートリーを広げることなどの指摘があった。

## 指導日■

昭和55年11月25日～26日

## 指導場所■

滋賀県立信楽窯業試験場  
信楽町内陶器製造業個別訪問

## 専門指導員■

佐久間幸 (株)西武百貨店商品部家庭用品部)

## 指導対象業種・品目■

信楽焼陶器製造業

## 指導対象組合・企業■

信楽陶器工業協同組合  
丸伊製陶所  
壺八製陶所  
小西立二菱三陶園  
丸滋製陶所  
中郷陶房  
加藤喜代司

# 福井県

## ■福井県商工労働部工業開発課

910 福井市月見町5-4-23  
TEL.(0776)54-5164

## 現地指導員■

### ①若狭めのう

村西敬次 福井県工業試験場工芸課長  
910 福井市若米町920  
TEL.(0776)54-5164

### ②越前焼

上田耕三 福井県窯業試験場技術指導課長  
916-02 福井県丹生郡宮崎村増原  
TEL.(077832)2005

## 現状■

### ①若狭めのう

若狭めのう業者は殆んど中小零細企業であり、情報不足のため積極的な商品開発能力に欠けている。

### ②越前焼

越前焼は素朴な味わいを真情とするが、情報不足を来しているため意欲的な商品開発能力に欠けている。

## 実施概要■

### ①若狭めのう

“生きたデザインを作れ”の課題のもと、対象細工の動物に犬、コイ、セキレイが選ばれ、各動物の骨格・筋肉の作りに至るまで細かく指導を受けた。

協同組合から若手を中心に15人が受講し熱心に聞きいった。巡回指導では14人が指導を受けた。

## ②越前焼

巡回指導：

越前焼に関する優秀デザイン商品の開発についての指導を重点的に実施した。

## 指導日■

### ①若狭めのう

昭和56年3月12日～13日

### ②越前焼

昭和55年9月11日～12日

## 指導場所■

### ①若狭めのう

若狭めのう会館会議室

### ②越前焼

参加各企業

## 専門指導員■

### ①若狭めのう

船津英治（フリーライズデザイナー）

### ②越前焼

宇佐波徳美（(有)ウサナミデザイン研究所  
代表取締役）

## 指導対象業種・品目■

### ①若狭めのう

### ②越前焼

## 指導対象組合・企業■

### ①若狭めのう商工業協同組合

### ②越前焼工業協同組合

■

# 和歌山県

## ■和歌山県経済部商工課

640 和歌山市小松原通1-1

TEL.(0734)32-4111

## 現地指導員■

### ①ブラシ、たわし、マット、ホーキ等

小川幸夫 和歌山県工業試験場

木材工業部長

649-62 和歌山市小倉60

TEL.(0734)77-1271

### ②漆器、プラスチック製品

土井音次 和歌山県漆器試験場次長

642 海南市船尾226-2

TEL.(07348)2-0844

## 現状■

### ①ブラシ、たわし、マット、ホーキ等

古くから当地方では棕櫚繊維を豊富に産したため、ロープ、ホーキ、たわし、農業用みの等を製造していたが、戦後、棕櫚繊維の不足

でパーム、シダなどの輸入原材料がとって変わった。

近年は化学繊維の導入をはじめとするプラスチックの台頭で当地で生産される商品も多種多様化してきた。現在、製品の多様化により業界は比較的順調に推移しており、全国のシェアは80%と推定されている。しかし、原材料の価格上昇や一部製品の輸入増加などの問題が顕在化しているうえ、製造販売の形態が多種にわたり、流通販売経路の複雑さが目立つ業界である。また、

(1)同種製品内での多様化が進行し過ぎ在庫増の傾向にある

(2)産地内外のコスト競争で一部製品に品質低下をまねいている

(3)消費者ニーズの変化に対応するため目先の商品開発に追われ長期的展望にかけられ、などがデザイン上の問題点としてあげられる。当面の課題として新製品開発、新しい販売ルートの開拓、原材料高騰への対策などがある。

## ②漆器、プラスチック製品

海南の漆器は「紀州漆器」と呼ばれ、室町時代からの黒江塗と、14世紀後半根来僧によって開発された「根来塗」がある。江戸時代は紀州藩の保護と豊富な櫨材を背景に日用品漆器の大産地として発展し、会津、山中と並んで三大産地を形成した。主力製品は盆（板もの）におき推移してきたが、合成樹脂素地の開発に伴い、それぞれの産地の独自性が失われ過当競争を生み現在に至っている。

（問題点）

(1)製品のオリジナリティ、デザイン開発力の低さから製品のライフサイクルが短い。

(2)小物で多様化しているため伝統からの遊離がみられ漆器のイメージが失われつつある。

(3)主力市場である進物用、贈答用としての魅力が失われ需要が減退している。

(4)産地間屋の支配力が強く製品の開発・改良に必要な情報に乏しく、市場動向の把握もなされていないため主体的なマーケティング施策がとりにくく、製品に対する付加価値観がうすい。

(5)原材料の高騰による製品価格への転嫁がむづかしい。

（デザイン指導の方針）

長期的展望に立った新製品の開発、旧態依然とした美的感覚の払拭、付加価値観の見直しとオリジナル製品の開発意識の教育等。

## 実施概要■

### ①ブラシ、たわし、マット、ホーキ等

(1)基本指導（出席者45名）

●新しいモノへのチャレンジ：消費者の意識構造の変化と周辺商品（衣服、食品等）との関連での発想について

●商品開発発想の基本：スポーツや食生活、季節感充実の方策、商品の差別化など生活様式の変化と商品開発について

●最近の動向と現状の見直し：最近の動向で注目すべき事項について

## (2)開発指導（7企業）

●現有商品郡の新しい展開について

●色彩及びパッケージについて

●周辺商品と当該商品との関連及びデザインについて

●現実には落込みが確実な商品分野における商品開発について

## ②漆器、プラスチック製品

(1)基本指導（出席者43名）

●専門指導員から観た業界の問題点についての意見交換

●新製品に対する発想の基本（生活様式に合った製品の開発や消費者層の選別等）

●ギフト市場—贈答品市場の現状について

(2)開発指導（6企業）

●現有商品の新展開について（質、美的感覚等）

●取扱商品の選別（売れない商品に対するダンピング等の廃止）

●自社製品の流通経路、市場の把握について

●パッケージデザインについて

●新市場開拓のためのグループ活動について

## 指導日■

### ①ブラシ、たわし、マット、ホーキ等

昭和56年3月12日～13日

### ②漆器、プラスチック製品

昭和56年2月26日～27日

## 指導場所■

### ①ブラシ、たわし、マット、ホーキ等

田中屋（基本指導）、参加企業（開発指導）

### ②漆器、プラスチック製品

和歌山県漆器試験場会議室（基本指導）、  
参加企業（開発指導）

## 専門指導員■

### ①ブラシ、たわし、マット、ホーキ等

大川 允（(株)伊勢丹研究所インダストリアルデザイン担当ディレクター）

### ②漆器、プラスチック製品

楢戸 茂（(株)高島屋本社商品本部  
商品デザイン担当）

## 指導対象業種・品目■

### ①ブラシ、たわし、マット、ホーキ等

### ②漆器、プラスチック製品

## 指導対象組合・企業■

### ①ブラシ、たわし、マット、ホーキ等

海南特産和雑貨協同組合

(有)山本ブラシ

唐崎ホーキ店

サンデーブラシ工業

三和ブラシ製作所

早川ホーキ(株)

元亀工業所

ワコー(株)

## ②漆器、プラスチック製品

和歌山県漆器商工業協同組合

(株)島安汎工芸製作所

(有)妹背保雄商店

池博漆器店

(株)藤田三郎商店

(有)橋本漆芸

(株)中西工芸



# 鳥取県

## ■鳥取県商工労働部通商観光課

680 鳥取市東町1-220

TEL.(0857)26-7221

## 現地指導員■

門脇善昭 鳥取県工業試験場製紙科長

680 鳥取市秋里390

TEL.(0857)22-8321

## 現状■

因州和紙は鳥取県東部の青谷町、佐治村で生産され、工場数は55で生産額は手抄、機械抄を合せて約18億円である。

主要製品は、画仙紙、書道半紙等いわゆる書の紙であるが、楮、三極、雁皮の原料を使った独特の機械抄和紙による工芸紙、美術紙など多彩な優れた製品も年々増加している。この機械抄和紙を高級商品の包装分野へ需要開拓を図ろうとするものであるが、和紙の大量印刷に対応するためには印刷適性の向上、印刷方法等の研究開発を推進する必要がある。

## 実施概要■

和紙利用者としての立場から県内の菓子業者、印刷業者の代表も出席して和紙印刷についての概論を講演方式で研修し、あらかじめ試験印刷されたそれぞれの用紙について個別評価を受けた後、質疑応答により印刷適性、印刷技術等の指導助言を受ける。

## 指導日■

昭和56年2月25日

## 指導場所■

鳥取県庁会議室

## 専門指導員■

西川誠一 (大日本印刷(株)榎町工場技術課技術係長)

## 指導対象業種・品目■

機械抄和紙製造業

## 指導対象組合・企業■

大因州製紙協業組合

いなば和紙協業組合

# 島根県

## ■島根県商工労働部商工貿易課

690 松江市殿町1

TEL.(0852)22-5283

## 現地指導員■

森口 保 島根県工業技術センター

産業意匠科長

699-01 島根県八束郡東出雲町出雲郷219

TEL.(085252)4480

## 現状■

石見焼の発祥は、18世紀半ばで県西部で製造され、生活用品が主体で大型陶器もかなり作られている。

業界として組織された団体は、石見陶器工業協同組合があり現在の組合員は26人である。主たる商品はカメ、スリパチ、ツボ、傘立てなどであるが、来待石(赤)、温泉津石(白)の釉薬を生かした新しい製品の開発に取り組んでおり、伝統的工芸品の指定申請の動きもある。

## 実施概要■

参加各企業を対象に、新製品の開発、既存商品の改善を目的とした指導が行なわれ、一部伝統的工芸品指定にかかわる指導も実施された。また、全般的な問題として、生活の変化と、陶磁器関連商品の市場動向に対応するための企業のあり方、今後の課題などの指導も実施した。

## 指導日■

昭和56年3月24日～25日

## 指導場所■

参加各企業

## 専門指導員■

和田三千穂 (ワダデザイン研究所所長)

## 指導対象業種・品目■

陶磁器(石見焼)

## 指導対象組合・企業■

石見陶器工業協同組合



# 広島県

## ■広島県商工労働部流通対策課

730 広島市中区基町10-52

TEL.(0822)28-2111

## 現地指導員■

平田 勉 広島県立工芸試験場研究員

片山 成 広島県立工芸試験場研究員

729-01 福山市柳津町2252-18

TEL.(08485)2-4161

## 現状■

### 松永下駄

#### (1)沿革

下駄の町として知られている「松永」は、江戸時代に塩田を構築することにより開かれた町である。

この地において木履産業が発展したのは、塩田に入れる海水の導入排水のための水路が、後に木材運搬に利用され、港湾製材の便と相まったのが一因している。

明治11年、下駄小売商丸山茂助が、四国、山陰方面への塩積船の帰り荷で塩の濃縮に使用する薪の中に、大きな木材が含まれているのを発見し、その木材を使用して下駄を製造したのが始まりである。

まもなく、全国にさががけ下駄製造の機械化を図り、大量生産に成功し全国一の産地となった。

材料は、内地材のみでなく、輸入材(アメリカ、ソ連)も多く、その製品は全国各地に販売されている。

最近は生活様式の変化に応じて、ケミカルサンダル、スリッパ等の製造も盛んである。

#### (2)特色

大量生産方式による大衆的実用下駄である。現在、加飾方法の改良によって漆塗りに劣らない耐久力のある松永塗りの開発さらに桐磨き下駄に足形のつかない、汚れない加工法等他産地に劣らない松永独自の加工技術によって好評を得ている。

### 木ヒール

#### (1)沿革

我が国の木ヒールの製造は、昭和22年頃、阪神地方のゴム工場でビニール靴が考案され、このヒール(かかと)として使用されたことに始まる。

本県において、木ヒール産業が発展したのは、当時、福山市松永地区が木履の産地であり、木履から出る廃材を利用できたからである。ビニール靴が、履物市場においてケミカルシューズとして流行するに及んで、木履の廃材利用だけでは需要に応じ切れなくなり、原木を国内(北海道)ばかりでなく、国外(アメリカ、フィリピン等)から仕入れて大量生産するようになった。

その後、ゴム靴、皮靴等にも木ヒールが使用されるようになり、木ヒール産業は盛んになった。

#### (2)特色

ケミカルシューズ、サンダル、ハップ(つかい)等の木ヒール、その他高度な技術と生産能力をもって、秀れた製品が即納できる。塗加工技術で、当地独特の塗装ができる。

## 実施概要■

### ①個別指導

(株)マルヤマ——サンダル、ケミカル  
全般的なアドバイスとして、ファッション界の動向から「スカート丈が短くなる傾向があり、足首に動かし難いとして後かけを考へる必要がある。」「ワンポイントの絵柄として、パロディの要素を採り入れてみては」などが述べられた。

広木工業(株)——サンダル、下駄

全般的なアドバイスとして、「これから81年にかけての色調はペールトーン(淡い色)。「ちぐはぐルック、思いがけない配色の対比を調和させたもの」「カーキ色、ナチュラルな素材も好まれる傾向があり、ジーンズや、綿入れ(キルティング)も検討すべきである」などが指摘された。

松永木履合資会社——下駄、木製サンダル  
全般的なアドバイスとして「積極的なコントラストの強調とバランスについて」「下駄と健康については、親指のつけねの刺激も効果があるのではないか」などが指摘された。

### ②集団指導

個別指導を受けた企業を主に、午前中は、各企業より持ちよった商品を見ながら指導が行なわれ、午後は「81春・夏ファッション」をテーマとした講演があった。

- 安定な形、不安定な形
- 動きを感じるもの(求心的、発散的)
- ズボンの丈と名称
- スカート丈と名称
- ファッション動向について(イタリアファッション、スカンジナビアファッション、パリコレクション)

### 指導日■

昭和55年11月17日～18日

### 指導場所■

参加各企業内

### 専門指導員■

木村益子(木村益子服装研究所所長)

### 指導対象業種・品目■

下駄、サンダル、木ヒール

### 指導対象組合・企業■

(株)マルヤマ  
広木工業(株)  
松永木履合資会社  
広島県木製はきもの協同組合

# 香川県

## ■香川県経済労働部企業振興課

760 高松市番町4-1-10

TEL.(0878)31-1111

### 現地指導員■

郡谷文雄 香川県工業技術センター嘱託

760 高松市郷東町587-1

TEL.(0878)81-3175

### 現状■

本県のボタン業界では、ポリエステル、カフエイン、アクリル、貝などを素材としたシャツ、婦人服、紳士服、子供服及びアクセサリ一用ボタンを生産しており、現在、企業数が56社、生産額は約30億円で、その仕向先は国内向けと海外向けがほぼ半々の割合になっており、特にポリエステルボタンの分野では全国比70%を占めるに至っている。

戦後、本県業界では昭和30年頃より安価な素材である合成樹脂を使ったポリエステルボタンの製造に着手し始め、最近までシャツ用のポリエステルボタンを主体とした輸出向け産地として発展してきたが、相次いで起こったドルショック、オイルショックに伴う輸出環境の悪化により、輸出額は年々減少の一面をたどり、ここ数年、業界では国内向けの生産に力を入れている。

ところが、生産規模などで国内他産地に遅れはとっていないものの、この業界は東京、大阪などの大消費地に遠く、これまで輸出主体の販売体制であったことから、商品の企画力及び販売力の面で他に比べ劣っているのが問題となっている。

## 実施概要■

### ①基本指導(講演会)

まず、講師が勤務されている(株)アイリスのボタン製造のシステムについてのビデオが紹介された後、下記テーマについて講演された。

- アパレルについて
- ボタンの種類について
- ボタンと服地について
- ボタンと素材について
- ボタンの型体について
- ファッション傾向について
- 81年秋・冬のトレンドについて

### ②開発指導

(有)古林貝鉦工場と、(有)石川鉦製作所の2社を対象に既存商品のデザイン改善等について巡回指導した。

### 指導日■

昭和56年2月12日～13日

## 指導場所■

(有)香川県輸出鉦振興会会議室

## 専門指導員■

藤沢隆三 (株)アイリス取締役役意匠部長)

## 指導対象業種・品目■

ボタン

## 指導対象組合・企業■

(有)香川県輸出鉦振興会

(有)古林貝鉦工場

(有)石川鉦製作所

# 愛媛県

## ■愛媛県商工労働部商工観光課

790 松山市一番町4-4-2

TEL.(0899)42-2111

### 現地指導員■

森元数茂 愛媛県窯業試験場主任研究員

791-21 愛媛県伊予郡砥部町五本松

TEL.(089962)2076

### 現状■

砥部町は、松山市の南約10kmの所にあり、磁器の産地として200余年の歴史をもっている。良質の陶石と伝統技術によって生産される陶磁器(砥部焼)の地肌は、特有の優雅な味をもつ白磁を特色として、花器、茶器、一般家庭用品など多種多様の製品が生産されている。

70企業450名、年産額15億円で、51年12月、国の「伝産法」の指定も受けている。今後の問題点としては、製品の高級化、新製品の開発の宣伝、広告の強化、市場調査の実施、産地の特色を生かしたデザインの開発等、既存商品のデザイン改善並びに新商品を創り出すよう指導する。

## 実施概要■

- 伊予陶磁器協同組合と各企業が特参した製品について個々に改善指導が行なわれた
  - デザインの一般概論について講演も行なわれた
  - 企業別巡回デザイン指導、半製品、個々に改善指導が行なわれた
- 指導先：酒井製陶所(五松園)及大西陶芸

### 指導日■

昭和56年3月23日～24日

## 指導場所■

伊予陶磁器協同組合

砥部焼製造業者窯元

## 専門指導員■

熊沢輝雄 (財)岐阜県陶磁器陳列館長)

## 指導対象業種・品目■

陶磁器 (砥部焼)

## 指導組合・企業■

伊予陶磁器協同組合 (砥部焼業者)



# 大分県

## ■大分県商工労働部中小企業課

870 大分市大手町3-1-1

TEL.(0975)36-1111

## 現地指導員■

小田島陽一 大分県別府産業工芸試験所長

874 別府市東荘園町3丁目3組

TEL.(0977)22-0208

中川千年 大分県日田産業工芸試験所長

877 日田市石井町3

TEL.(09732)3-2213

## 現状■

別府地域には竹製品、つげ製品等の手工業産業があり、生産品目には、花籠、盛籠やブローチ、ペンダント等の土産品がある。これらには発展途上国の追上げや、土産品産業の不振等の理由から、付加価値の高い製品づくりへの転換が図られている。

林業を中心とした日田地区では特産杉材等の資源を生かした家具産業の他に、木竹工芸品が作られているが、類似品の追上げ、厳しい過当競争等で、生産は伸び悩んでおり、新しい生活様式の需要に応えるべく製品づくりを図っている。

このように県内工芸品産業には新しい消費者ニーズに応えた商品開発が急務とされているが、ほとんどの企業は家内工業型で、消費動向や流通に関する知識に乏しく、デザイン、開発能力はあまり高くない。現代のように流通が細分化されてくると、売り場や流通をある程度想定したものづくりが必要であるので、各業種別に、商品計画に基づく新商品の開発を指導することにした。

## 実施概要■

上記の現状をふまえ、商品計画立案の方法についての集中講義と、それに基づいた具体的な製品指導を実施した。

●商品計画の方法についての講義の骨子は次のとおりである。

「最近では人々の暮らし方が多様になってきたため、ただ単に用途別や素材別の分類で商品計画をたてていく方法では消費者の需要には対応しきれなくなっている。そこでいづれの百貨店でもキャラクター (特性) ある

いはライフスタイルでまとめていく商品計画がなされつつある。この方法は商品のある要素でグループ化し、ターゲットをしぼって商品開発を行ない、トータルな品種、製品を展示販売することである。」

## ●事例に基づく指導内容

近年、ファッション雑貨が注目されており、アクセサリ関係は新しいマーケットとしてクローズアップされてきている。つげのアクセサリ等はエレガントで落ち着いた感じに焦点を定めてトータルな商品計画を行なうことが大切である。竹製品ではナチュラルな素材が好まれる傾向にあるが、素材を含めた色を考えていく姿勢は必要であろう。また女性向けのカジュアルなものも含めて品種を拡大していく方向を考えるよう指導された。なお、専門の立場から、百貨店、専門店などのギフト商品としての改善点や条件、流通にのせるための価格、包装等についても指導がなされた。

## 指導日■

別府：昭和55年9月24日

日田：昭和55年9月26日

## 指導場所■

別府：別府産業工芸試験所

日田：日田産業工芸試験所

## 専門指導員■

斉藤文徳 (株)伊勢丹研究所インダストリアルデザイン研究室)

## 指導対象業種・品目■

別府：竹、つげ製品

日田：木竹工芸品

## 指導対象組合・企業■

別府：別府竹製品協同組合

別府つげ加工業協同組合

日田：日田工芸振興会



# 佐賀県

## ■佐賀県商工労働部観光課

840 佐賀市城内1-1-59

TEL.(0952)24-2111

## 現地指導員■

奥山博明 佐賀県窯業試験場指導部長

坂本義弘 佐賀県窯業試験場特別研究員

844 佐賀県西松浦郡有田町中部田ノ平

TEL.(09554)3-2185

## 現状■

佐賀県の代表的地場産業である陶磁器産業は国内にあっては消費者ニーズの多種多様化、

国外にあっては発展途上国の追いあげ等により非常に厳しい環境にある。特に、輸出の分野においては、その原料問題もさることながらデザインの研究開発の面でまだ遅れがみえ、有田、伊万里地区の産地では、西欧先進諸国の市場動向を把握し、新商品開発に取り組んでいるところである。

## 実施概要■

有田、伊万里地区の陶磁器は、古伊万里に代表されるごとく、永い伝統と高度な技術に支えられ、内外の人々に愛され、利用されてきた。したがって、その伝統工芸品としての持ち味を生かしながら新商品、とりわけ西欧先進諸国の嗜好性を踏まえたデザインの開発指導を実施した。

当日は、各企業を個別に訪問し、デザイン担当者、或いは製作担当者等を交え、内外の市場動向について説明を行なうとともに、それぞれの製品について具体的なアドバイスをするなど個性的な指導が行なわれた。

## 指導日■

昭和56年2月16日～17日

## 指導場所■

有田町、伊万里市、武雄市

## 専門指導員■

田中芳雄 (デザイン事務所TAK主宰)

## 指導対象業種・品目■

陶磁器

## 指導対象組合・企業■

有田町：(株)華山、陶芸しん窯、(有)福田製陶所

伊万里市：(有)魯山製陶所、(株)伊万里陶苑

武雄市：肥前の国窯業(有)



# 鹿児島県

## ■鹿児島県水産商工部商工振興課

892 鹿児島市山下町14-50

TEL.(0992)26-8111

## 現地指導員■

堀之内輝男 鹿児島県木材工業試験場

指導部長

891-01 鹿児島市東開町1

TEL.(0992)69-2451

## 現状■

鹿児島県における、木製品製造業として代表的な屋久杉業界も低成長時代のなかで一段ときびしさをましている。業界としても打開策に懸命の努力をしているが、県としても重要産業として位置づけ振興をはかっている。

しかし当該業界は零細企業が多く独自の製品開発、デザイン開発が困難な状況にある。現在県内に2つの協同組合組織があるが、この組織を中心とした産地体制の確立及び企業の経営安定をはかるため、特にデザイン振興体制の確立のための基本指導が必要である。

#### 実施概要■

●工芸展(第10回住まいと暮らしの工芸展)出品物についてデザイン指導をうけた。

- 屋久杉家具
- 屋久杉小工芸品
- 竹製品
- その他

●デザイン講演会

「鹿児島における木竹製品の商品開発とデザイン」をテーマにデザインの基本指導をうけた。

●直接現場工場での生産過程、製品について指導助言をうけた。

#### 指導日■

昭和56年3月30日～31日

#### 指導場所■

参加各企業

#### 専門指導員■

秋岡芳夫 (東北工業大学教授)

#### 指導対象業種・品目■

屋久杉家具、木竹小工芸品

#### 指導対象組合・企業■

鹿児島県屋久杉事業協同組合

## 沖縄県

#### ■沖縄県商工観光部伝統工芸課

900 那覇市泉崎1-2-32

TEL.(0988)66-2348

#### 現地指導員■

平良昭隆 沖縄県伝統工芸指導所主任研究員

901-11 沖縄県南風原町字照屋213

TEL.(0988)89-1186

#### 現状■

沖縄の陶器、漆器、織物、紅型等の伝統的な技術又は技法のほか、各時代の創意工夫によって積み重ねたデザインを基盤にして受けつがれてきたものであるが、現状は本土をはじめとする海外からの類似品の攻勢と県民生活の向上への寄与という内からの要因により従来にもまして、工芸品のオリジナル化、高級品化及び多様化を図る必要に迫られている。また、産地全体のデザインマインドも薄いこ

と等からデザイン開発の体制が立ち遅れている現状にある。

したがって、消費ニーズに合致した商品の多様化を目ざしたデザインの商品を業界独自で開発できるようデザイン開発知識の普及等デザイン振興体制確立のための基本指導が必要である。

#### 実施概要■

県内業界のデザインに対する理解を深めることが、今のところ重要であることから、陶器、織物、漆器、紅型等の業界に地場産業とデザイン、染織とデザインについての講演会を中心とした指導を実施した。

また、今回は特に「染織」を中心とした着尺を展示し、それぞれの製品について個別に問題点を指摘し、具体的にアドバイスをを行うなどの指導がなされ、その後に講師を囲んで参加した受講者と染織についての質疑応答がなされた。

#### 指導日■

昭和55年12月17日

#### 指導場所■

那覇市自治会館

#### 専門指導員■

古田重郎 (多摩美術大学教授)

高藪 昭 ((財)日本産業デザイン振興会  
業務第一部長)

#### 指導対象業種・品目■

陶器、漆器、紅型、織物

#### 指導対象組合・企業■

壺屋陶器

琉球漆器

琉球紅型

那覇伝統織物

読谷山花織各事業協同組合

## 昭和55年度(優)事業委員

通商産業省貿易局検査デザイン課長  
〒100 東京都千代田区霞ヶ関1-3-1  
TEL(03)501-1511

中小企業庁指導部取引流通課長  
〒100 東京都千代田区霞ヶ関1-3-1  
TEL(03)501-1511

宮城県商工労働部商工振興課  
〒980 仙台市本町3-8-1  
TEL(0222)63-2111

栃木県商工労働部中小企業課  
〒320 宇都宮市塙田1-1-20  
TEL(0286)23-3170

愛媛県商工労働部商工観光課  
〒790 松山市一番町4-4-2  
TEL(0899)41-2111

大分県商工労働部中小企業課  
〒870 大分市大手町3-1-1  
TEL(0975)36-1111

宇佐波徳美 (有)ウサナミデザイン研究所  
〒151 東京都渋谷区西原2-18-6  
TEL(03)469-7511

加藤 鏡一 カガミデザインスタジオ  
〒489 瀬戸市城ヶ根町26-1  
TEL(0561)83-1569

羽生 道雄 モノプロ工芸株式会社  
〒213 川崎市高津区菅生1873-3  
TEL(044)976-0551

平野 拓夫 (株)平野拓夫デザイン設計事務所  
〒158 東京都世田谷区深沢8-12-7  
TEL(03)704-3111

財団法人日本産業デザイン振興会  
〒105 東京都港区浜松町2-4-1  
世界貿易センタービル別館4階  
TEL(03)435-5633・5634

## 昭和55年度(優)事業専門指導員

秋岡 芳夫 工業デザイナー・東北工業大学教授  
〒164 東京都中野区中野2-12-5 メゾンリラ104  
TEL(03)384-2652

宇佐波徳美 (有)ウサナミデザイン研究所代表取締役  
〒151 東京都渋谷区西原2-18-6  
TEL(03)469-7511

大川 允 (株)伊勢丹研究所インダストリアル・デザイン担当ディレクター  
〒160 東京都新宿区新宿3-14-1  
TEL(03)352-1111

荻野 克彦 (有)ハンプティ・ダンブティ代表  
〒104 東京都中央区京橋2-7-7  
TEL(03)567-6715

木村 益子 木村益子服装研究所所長  
〒563 池田市石橋2-6-11  
TEL(0727)61-8693

熊沢 輝雄 (財)岐阜県陶磁器陳列館長  
〒507 多治見市陶元町175  
TEL(0572)23-1191

斉藤 文徳 (株)伊勢丹研究所インダストリアル・デザイン研究室  
〒160 東京都新宿区新宿3-14-1  
TEL(03)352-1111

佐久間 幸 (株)西武百貨店商品部家庭用品部  
〒170 東京都豊島区東池袋3-1-1 サンシャイン60  
TEL(03)989-0111

佐藤潤四郎 フリーランスデザイナー  
〒115 東京都北区赤羽台2-1, 34-402  
TEL(03)908-2626

佐戸川 清 佐戸川清デザイン事務所所長  
〒146 東京都大田区池上5-6-20  
TEL(03)754-1494

鈴木 庄吾 インダストリアル・デザイナー  
〒171 東京都豊島区長崎6-17-10  
TEL(03)972-6735

高木 晃 (株)高木晃デザイン事務所代表取締役  
〒150 東京都渋谷区桜ヶ丘町29-35 SDM102  
TEL(03)463-5826

高薙 昭 (財)日本産業デザイン振興会業務第一部長  
〒105 東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル別館4階  
TEL(03)435-5633

田中 芳雄 デザイン事務所TAK主宰  
〒489 瀬戸市南仲之切町75  
TEL(0561)82-4234

橋戸 茂 (株)高島屋本社商品本部商品デザイン担当  
〒103 東京都中央区日本橋通2  
TEL(03)211-4119

西川 誠一 大日本印刷(株)榎町工場技術課技術係長  
〒162 東京都新宿区榎町7  
TEL(03)266-2814

服部 守久 (株)博報堂第5本部マーケティング部参事  
〒100 東京都千代田区丸の内2-7-3 東京ビル  
TEL(03)240-7591

藤沢 隆三 (株)アイリス取締役意匠部長  
〒103 東京都中央区日本橋浜町1-11-8  
TEL(03)863-1421

船津 英治 フリーランスデザイナー  
〒605 京都市東山区泉涌寺東林町39  
TEL(075)531-2763

古田 重郎 多摩美術大学教授  
〒173 東京都板橋区南町57-6  
TEL(03)955-6074

松本 建治 フリーランスデザイナー  
〒101 東京都西神田3-5-7  
TEL(03)261-3325

八尾 武郎 (株)YAOデザイン研究所代表取締役  
〒160 東京都新宿区本塩町9-3 司法書士会館3F  
TEL(03)353-1546

山岸 柁史 テキスタイルアートスタジオ代表  
〒158 東京都世田谷区玉川1-12-13  
TEL(03)709-0621

山下 三郎 東北工業大学工業意匠学科助教授  
〒982 仙台市長町字越路19  
TEL(0222)29-1151

和田三千穂 ワダデザイン研究所所長・名古屋芸術大学教授  
〒450 名古屋市中村区名駅南2-3-34 野村ビル402号  
TEL(052)551-6770

